

# ながの金融広報だより

## 本年度第1回目の金融経済講演会を7月に開催します

長野県金融広報委員会が主催する本年度第1回目の金融経済講演会を、次の要領で長野市で開催します。大勢の皆さんのご参加をお待ちしています。

**参加無料**  
ただし聴講には  
参加証が必要です。

**日 時** 平成23年7月25日(月) 18:30~20:00

**会 場** ホテルメトロポリタン長野

**講 師** 見城美枝子 氏

**演 題** 「変わりゆく時代の暮らしと金融」

**定 員** 120名（先着順。定員に達し次第締め切ります）

**募集期限** 平成23年7月15日(金)



### 応募方法

郵便番号、住所、氏名、電話番号(平日の昼間に連絡可能な先)を明記のうえ、必ず**往復はがき**でお申し込み下さい。先着120名様に参加証をお送りします。

なお、ご参加の受け付けは、**往復はがき1枚につき1名**とさせて頂きます。

また、**往復はがき以外でのお申し込みは受け付けいたしませんのでご注意下さい。**

### 宛て先

〒380-0936 長野市岡田178-8

日本銀行長野事務所内 長野県金融広報委員会「講演会 K」係

※お送り頂いた個人情報は、当講演会関係事務以外に使用することはありません。

### 講 師 見城美枝子 氏

#### プロフィール

青森大学教授・エッセイスト・ジャーナリスト。早稲田大学大学院理工学部工学研究科修士修了。同博士課程単位取得。東京放送アナウンサーを経てフリーに。現在、青森大学社会学部教授。著作、対談、講演、テレビ等で活躍。

## 「大人の文化祭」に出展します



(昨年の様子)

6月11日(土)・12日(日)に長野市のエムウェーブにおいて開催される「大人の文化祭」(主催：大人の文化祭2011NAGANO実行委員会)に、長野県金融広報委員会がブース出展します。

会場では1億円の重さ体験、銀行券の裁断くずを利用した乗作りなどを行います。また、金融に関するクイズに挑戦した方には当委員会オリジナルミニタオルを差し上げますので、多数ご来場下さい。(各地の回覧状況等により、本紙が開催後に回覧された場合はご容赦下さい。)



## 講師を無料で派遣します

長野県金融広報委員会では、地域・グループ・学校PTAなどで開催される学習会・講演会・研修会などに、講師を無料で派遣しています。申込方法・講師リスト等は、当委員会のホームページをご覧いただか、事務局までお問い合わせ下さい。



## 最近の講演のテーマ例

- ・最近の金融トラブル事情
- ・どうする教育費？ いくら貯める どう貯める
- ・新社会人ためのお金のレッスン
- ・年金とセカンドライフの対策
- ・人生プラン実現への道
- ・契約社会とトラブル回避
- ・楽しく素敵なシニアライフ
- ・お金のはなし あれこれ

## 金融教育研究校を委嘱しました

長野県金融広報委員会では、毎年度、生徒・児童が社会人になっても役立つ金融知識を身に付けられるよう、学校教育の中で金融教育の要素を取り込んだ授業を幅広く展開する「金融教育研究校」を委嘱しています。今年度は**大町市立八坂中学校**(大町市)と**長野県塩尻志学館高等学校**(塩尻市)の2校を新規に委嘱しました。

研究校は、随時募集しておりますので、関心のある学校は委員会事務局までお問い合わせ下さい。



### コラム 信州の風

## 『不便を楽しむ』

長野県金融広報委員会事務局長  
(日本銀行長野事務所長) 林 幸裕

未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」が発生した丁度1か月後に本店(東京)へ出張しました。東京に着いてまず驚いたのは、昼間は電車が照明を点げずに運転していること、また券売機も約半分は使用停止となっているなど、これまで明るく賑やかだった首都東京とは程遠い光景でした。日本銀行本店でもエレベータの半分が停止、廊下や食堂の電灯は消されており、廊下で久し振りに会った同僚から「元気？」と声を掛けられても、相手の顔が確認できず戸惑ってしまいました。電力不足はかなり深刻な状況です。

全発電量の3割弱を原子力に頼っていること、新たな発電所を建設するにしても相応の時間を要することなどを考えれば、当面は電力不足の状態が続くと思われます。

そうなればこれまでと違って不便な生活を強いられることがあります、「ものは考えよう」です。昔は今のように便利でなかった筈です。多少不便であるがゆえに良いこともあるのではないかでしょうか？例えば、工

レベーターの代わりに極力階段を使うとメタボが解消できる、ネオンが少なくなると今まで見えなかつた星を見る事ができる、冷房をつける部屋を一家に一室と決めれば家族の会話が増えるなど、良いこともたくさんあると思います。

今回の大震災を機にこれまでの電力大量消費生活を見直し、不便を楽しんでは如何でしょうか？これは何も一定の期間や一部の地域のことではなく、我々日本国民のライフスタイルの変化として捉えるべきではないでしょうか。

そう言えば、本店で声を掛けられた同僚に「暗くて大変だろう、大丈夫？」と尋ねると、「慣れれば何てことないよ」と言っていたのが印象的でした。

